



秋田県のインバウンド現状把握調査 (前編)

目 次

要旨	2 ヒアリング調査編
はじめに	(1) 外国人宿泊者の受け入れ状況について
	(2) 外国人宿泊者の動向について
	a 国籍・出身地域
	b 年代
1 アンケート調査編	c 主な来秋目的
(1) 外国人宿泊者について	d 出入国空港と本県間の移動ルート
a エリア別構成比	e 交通手段
b 月別構成比	f 訪問した主な県内観光地
c 四半期別構成比	
d 延べ宿泊者数全体に占める外国人 延べ宿泊者数の割合	3 調査の分析
(2) 外国人宿泊者の特徴について	(1) アンケート調査の分析
a 国籍・出身地域	(2) ヒアリング調査の分析
b 特徴点	(3) 観光関連団体へのヒアリングに基づく 本県インバウンド観光に対する意見
c 来秋目的	a 情報発信
(3) 農家民宿の外国人宿泊者の特徴について	b 交通
a エリア別構成比	c 外国語への対応
b 月別構成比	d 地域による違い
c 国籍・出身地域	
(以上、前編本号)	4 まとめ
	さいごに
	(後編次号)

当研究所は、平成29年1～2月、本県インバウンドの現状を把握するため、県内宿泊施設を対象に、アンケートとヒアリングによる調査を実施した。

要 旨

- アンケートにご回答いただいた県内宿泊施設286か所において、平成28年外国人延べ宿泊者数のエリア別構成比をみると、仙北地域（34.2%）と秋田地域（32.9%）が3割超、鹿角地域（18.8%）が1割を超え、他エリアを上回った。月別構成比では、割合が高い順に、10月（23.2%）、11月（11.3%）、4月（10.1%）となり、外国人宿泊者は秋と春の行楽シーズンに多い傾向がみられた。
- 国籍・出身地域は、台湾（41.5%）、韓国（15.7%）、中国（6.2%）、香港（5.7%）、アメリカ（5.3%）などの割合が高く、上位10か国・地域のうちアジアが7か国・地域を占めた。
- 農家民宿については、外国人延べ宿泊者の7割超が仙北地域に集中している。月別構成比では、10月（28.1%）、11月（19.8%）、8月（16.1%）、12月（11.0%）が1割を超え、8月と秋季に宿泊が偏る傾向がある。国籍・出身地域別にみると、タイ（20.9%）、台湾（16.8%）、アメリカ（16.6%）の順に割合が高い。

宿泊施設タイプ別回答施設数

(単位：か所)

	旅館	リゾートホテル	ビジネスホテル	シティホテル	農家民宿	簡易宿所	会社・団体の 宿泊所	合計
鹿角地域	12	3	3	1	0	3	1	23
北秋田地域	15	0	5	1	12	4	1	38
山本地域	9	2	2	0	3	6	1	23
秋田地域	22	2	13	3	3	7	4	54
由利地域	11	2	2	1	4	4	1	25
仙北地域	39	4	4	0	21	9	3	80
平鹿・雄勝地域	26	1	3	1	4	6	2	43
合計	134	14	32	7	47	39	13	286

〈調査要領〉

- (1)調査対象 旅館業法の許認可を受けている秋田県内宿泊施設のうち
同伴施設、下宿施設、社員寮、キャンプ場等を除く施設
- (2)対象施設数 540か所
- (3)調査方法 郵送による調査票の配布および回収
- (4)調査期間 平成29年1月20日～2月10日

(5)回収の結果

調査票送付数(A)	540件
総回収数(B)	292件
有効回収数(C)	286件
無効回収数	6件
回収率(B/A)	54.1%
有効回収率(C/A)	53.0%

(6)エリア別有効回収率

エリア名	有効回収率
鹿角地域	47.9
鹿角市	37.5
小坂町	68.8
北秋田地域	52.1
大館市	57.1
北秋田市	43.5
上小阿仁村	0.0
山本地域	45.1
能代市	40.0
藤里町	57.1
三種町	33.3
八峰町	60.0

秋田地域	55.1
秋田市	50.0
男鹿市	75.0
潟上市	50.0
五城目町	60.0
八郎潟町	0.0
井川町	0.0
大潟村	66.7
由利地域	47.2
由利本荘市	44.1
にかほ市	52.6

仙北地域	56.3
大仙市	59.0
仙北市	52.6
美郷町	87.5
平鹿・雄勝地域	57.3
横手市	62.1
湯沢市	53.1
羽後町	80.0
東成瀬村	44.4
合計	53.0

(単位：%)

調 査

はじめに

当研究所は、平成29年1～2月、本県インバウンドの現状を把握するため、県内宿泊施設を対象に、アンケートとヒアリングによる調査を実施した。アンケート調査では、宿泊施設540か所に郵送で調査票を配布し、うち286か所から回答をいただいた。前頁の調査要領にある宿泊施設タイプの区分は、各施設の回答に基づくものである。

本調査は、観光庁「宿泊旅行統計調査」と異なる調査であり、また、インバウンド観光は市町村単位の観光ではなく周遊型が主流であるためエリア別の集計とした。

1 アンケート調査編

(1) 外国人宿泊者について

a エリア別構成比

アンケートにご回答いただいた県内宿泊施設286か所における平成28年外国人延べ宿泊者数のエリア別構成比をみると、仙北地域（34.2%）と秋田地域（32.9%）が3割を超えた（図表1）。

鹿角地域（18.8%）も二桁台と、割合が高い。

日本人を含む全体の延べ宿泊者数では、秋田地域の構成比（43.9%）は仙北地域（20.5%）の2倍以上であるが、外国人延べ宿泊者数に関しては仙北地域の構成比が最も高く、外国人旅行者の間では県内一の目的地となっている。

対前年増加率は28.2%で、延べ宿泊者数の増加率（2.8%）を大きく上回っている。

b 月別構成比

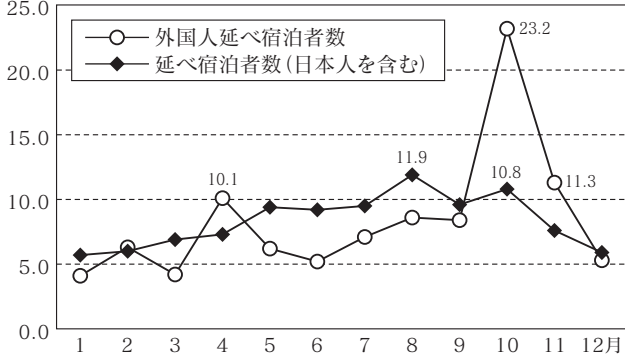
月別構成比では、10月（23.2%）が最も高く、続いて、11月（11.3%）と4月（10.1%）も1割超となった（図表2）。日本人も含む宿泊者全体では、8月（11.9%）、10月（10.8%）など、秋田竿燈まつりや全国花火競技大会に代表される夏祭りのシーズン、秋の行楽シーズンに宿泊者が多い傾向にあるが、外国人宿泊者では秋と春の行楽シーズンに多い傾向がみられる。例年、秋と春に秋田空港で台湾からのチャーター便が運航されていることが影響しているものと推測される。

図表1 外国人延べ宿泊者数と日本人を含む延べ宿泊者数（エリア別構成比）

（単位：%）

	平成27年		平成28年			
	外国人延べ宿泊者数	日本人を含む延べ宿泊者数	外国人延べ宿泊者数		日本人を含む延べ宿泊者数	
	構成比	構成比	構成比	増減率	構成比	増減率
鹿角地域	22.2	8.5	18.8	8.6	8.2	△1.7
北秋田地域	1.6	6.9	2.2	84.1	7.0	3.4
山本地域	2.0	4.9	4.3	167.3	5.1	7.1
秋田地域	27.7	44.6	32.9	52.6	43.9	1.1
由利地域	3.2	5.5	2.6	5.5	5.7	7.3
仙北地域	40.8	19.9	34.2	7.4	20.5	5.8
平鹿・雄勝地域	2.5	9.7	4.9	151.2	9.7	3.2
合計	100.0	100.0	100.0	28.2	100.0	2.8

図表2 平成28年 外国人延べ宿泊者数と延べ宿泊者数(日本人を含む)の月別構成比



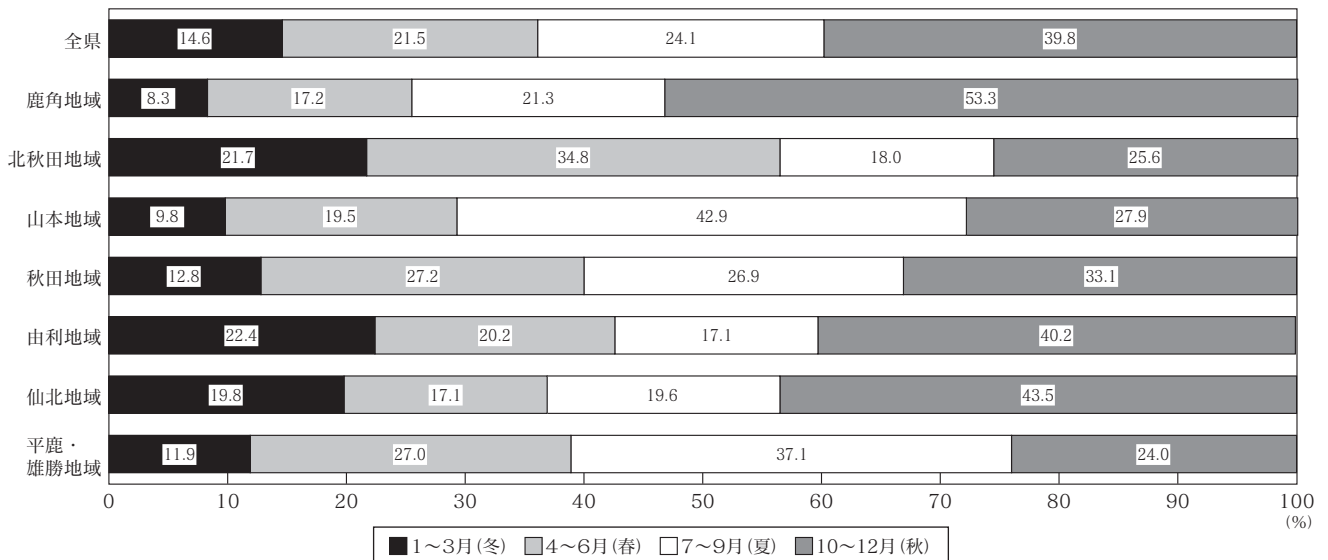
(注) 延べ宿泊者数の不明分(0.2%)は表示していない

c 四半期別構成比

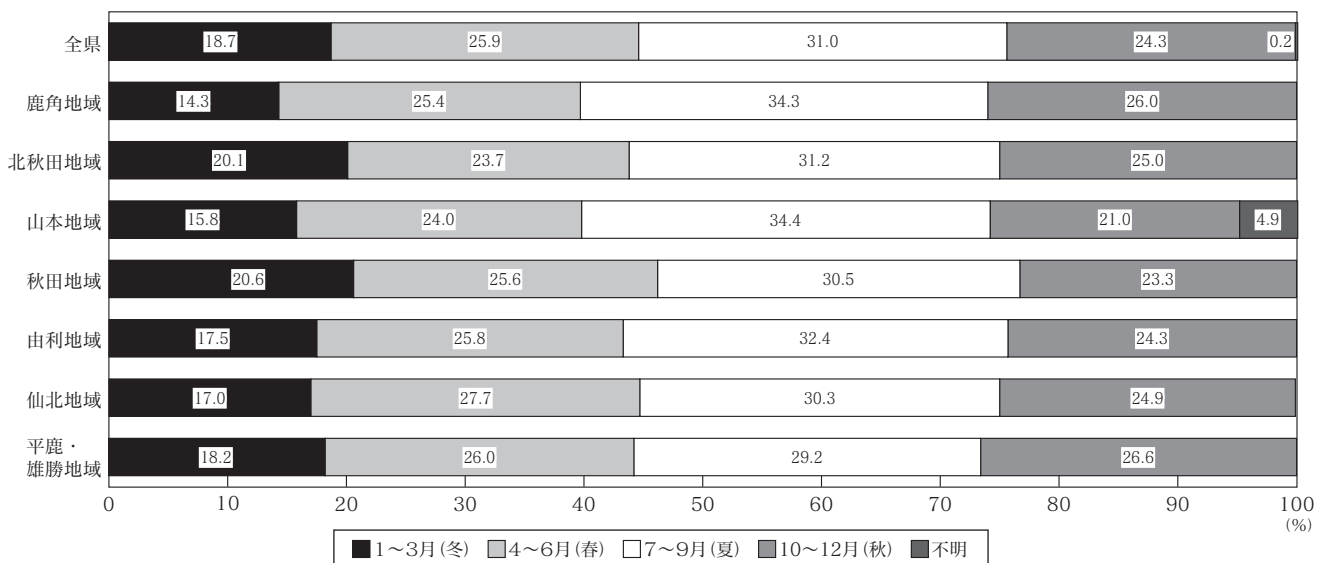
外国人延べ宿泊者数の四半期別構成比では、秋(10~12月)が39.8%で最も高く、続いて、夏(7~9月)が24.1%、春(4~6月)が21.5%とともに2割台となり、冬(1~3月)は14.6%となった(図表3)。日本人を含む延べ宿泊者数の構成比では、夏の割合が高く、冬が低く、春と秋はその中間という割合になっているが、外国人宿泊者は秋の割合が高い(図表4)。

全県の傾向と同様に、県内7エリアのうち4

図表3 平成28年 四半期別外国人延べ宿泊者数(エリア別構成比)



図表4 平成28年 四半期別日本人を含む延べ宿泊者数(エリア別構成比)



調 査

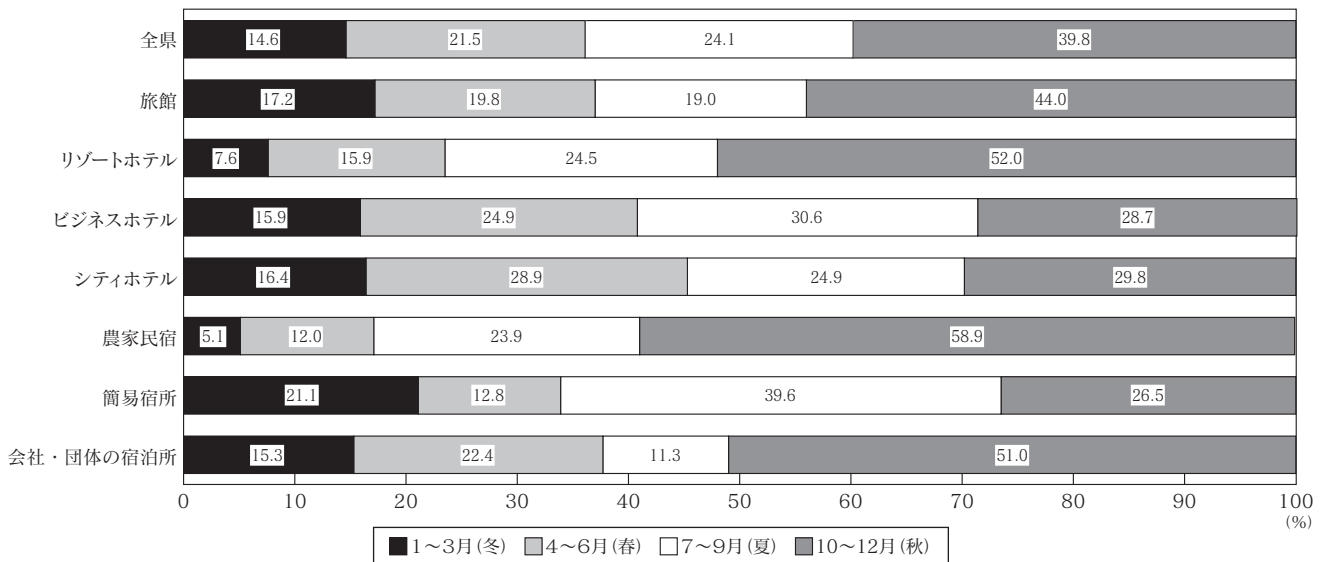
エリアでも秋の割合が最も高く、なかでも鹿角地域（53.3%）は5割を超える。一方、北秋田地域は春（34.8%）が、山本地域と平鹿・雄勝地域は夏が各々42.9%、37.1%と、最も高い。

宿泊施設タイプ別では、農家民宿（58.9%）、リゾートホテル（52.0%）、会社・団体の宿泊所（51.0%）は秋が5割超、旅館（44.0%）も秋の割合が高い（図表5）。簡易宿所とビジネスホテルは、夏が各々、39.6%、30.6%と、他の宿

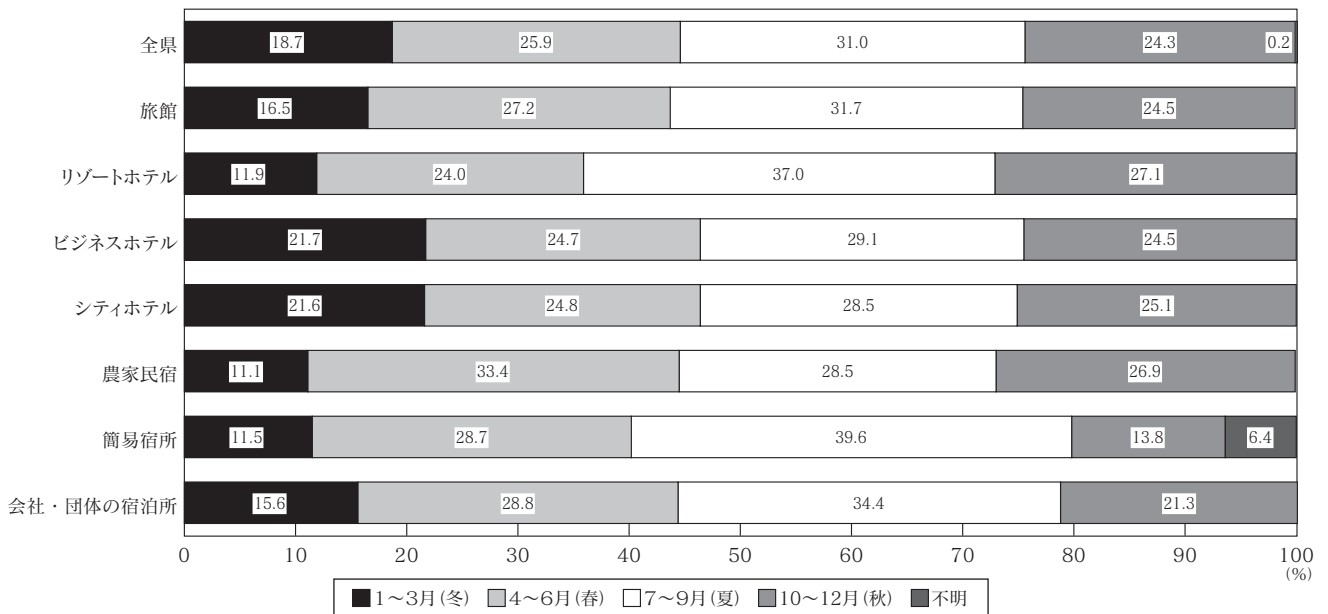
泊施設タイプを上回った。シティホテルは、四半期による違いがあまり大きく表れていない。

外国人宿泊者は、図表6の日本人を含む宿泊者全体と比べて、ビジネスホテルとシティホテルを除く全宿泊施設タイプで、秋の割合が10ポイント以上高くなり、特に農家民宿、会社・団体の宿泊所、リゾートホテルでは20ポイント以上も上回っている。

図表5 平成28年 四半期別外国人延べ宿泊者数（宿泊施設タイプ別構成比）



図表6 平成28年 四半期別日本人を含む延べ宿泊者数（宿泊施設タイプ別構成比）



d 延べ宿泊者数全体に占める外国人延べ宿泊者数の割合

平成28年の延べ宿泊者数全体に占める外国人延べ宿泊者数の割合は2.5%で、前年と比べて0.5ポイント上昇した（図表7）。

エリア別にみると、鹿角地域（5.6%）と仙北地域（4.1%）の割合が高い一方で、北秋田地域（0.8%）は1%を下回っている。前年と比べて、横這いとなった由利地域を除く6エリアで割合が高まった。

宿泊施設タイプ別では、リゾートホテル（8.6%）と農家民宿（6.2%）が高く、簡易宿所（0.3%）が低い（図表8）。また、前年と比較すると、旅館（△0.1ポイント）を除く全宿泊施設タイプで増加し、なかでも、農家民宿（+2.8ポイント）の伸びが大きい。

なお、外国人宿泊者が「〇」と回答した施設

図表7 延べ宿泊者数全体に占める外国人延べ宿泊者数の割合(エリア別)
(単位：%、ポイント)

	平成27年	平成28年	増減 (28年-27年)
鹿角地域	5.1	5.6	0.5
北秋田地域	0.4	0.8	0.3
山本地域	0.8	2.1	1.2
秋田地域	1.2	1.8	0.6
由利地域	1.1	1.1	0.0
仙北地域	4.0	4.1	0.1
平鹿・雄勝地域	0.5	1.2	0.7
合計	2.0	2.5	0.5

図表8 延べ宿泊者数全体に占める外国人延べ宿泊者数の割合(宿泊施設タイプ別)
(単位：%、ポイント)

	平成27年	平成28年	増減 (28年-27年)
旅館	2.5	2.4	△0.1
リゾートホテル	6.5	8.6	2.1
ビジネスホテル	1.1	1.5	0.5
シティホテル	2.1	3.9	1.8
農家民宿	3.4	6.2	2.8
簡易宿所	0.1	0.3	0.2
会社・団体の宿泊所	1.3	1.5	0.2
合計	2.0	2.5	0.5

は、27年が140か所（全回答施設の49.0%）、28年は106か所（同37.1%）であった。

(2) 外国人宿泊者の特徴について

以下、aからcまでの項目は、平成28年についての調査で、当該年単年の傾向を表している。

a 国籍・出身地域

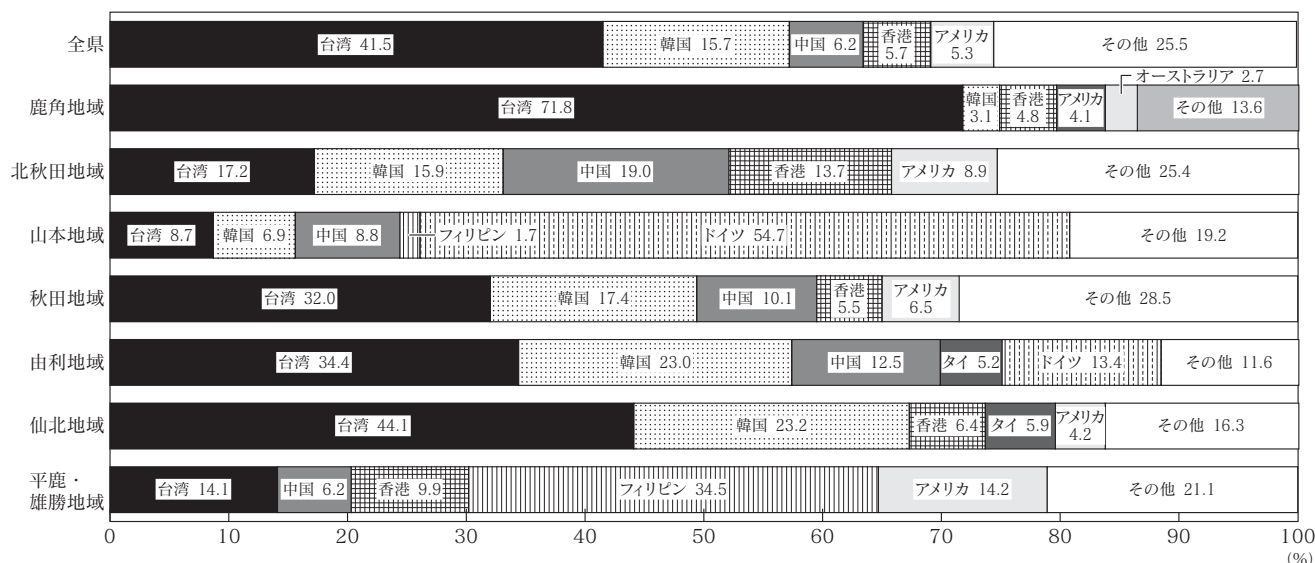
外国人宿泊者の国籍・出身地域は、上位10か国・地域のうち、アジアが7か国・地域を占め、台湾（41.5%）の構成比が最も高い。以下、韓国（15.7%）、中国（6.2%）、香港（5.7%）、アメリカ（5.3%）と続く（図表9）。

エリア別にみると、鹿角地域では、台湾（71.8%）の割合が圧倒的に高い。北秋田地域では、中国（19.0%）、台湾（17.2%）、韓国（15.9%）、香港（13.7%）がいずれも1割台で、国籍・出身地域にあまり偏りがみられない。山本地域ではドイツ（54.7%）が、平鹿・雄勝地域ではフィリピン（34.5%）の割合が高い。秋田地域は全県と似た傾向を示している。由利地域では、韓国が23.0%で、仙北地域（23.2%）とともに2割を超えた。仙北地域では、タイが5.9%と、他エリアを上回った。

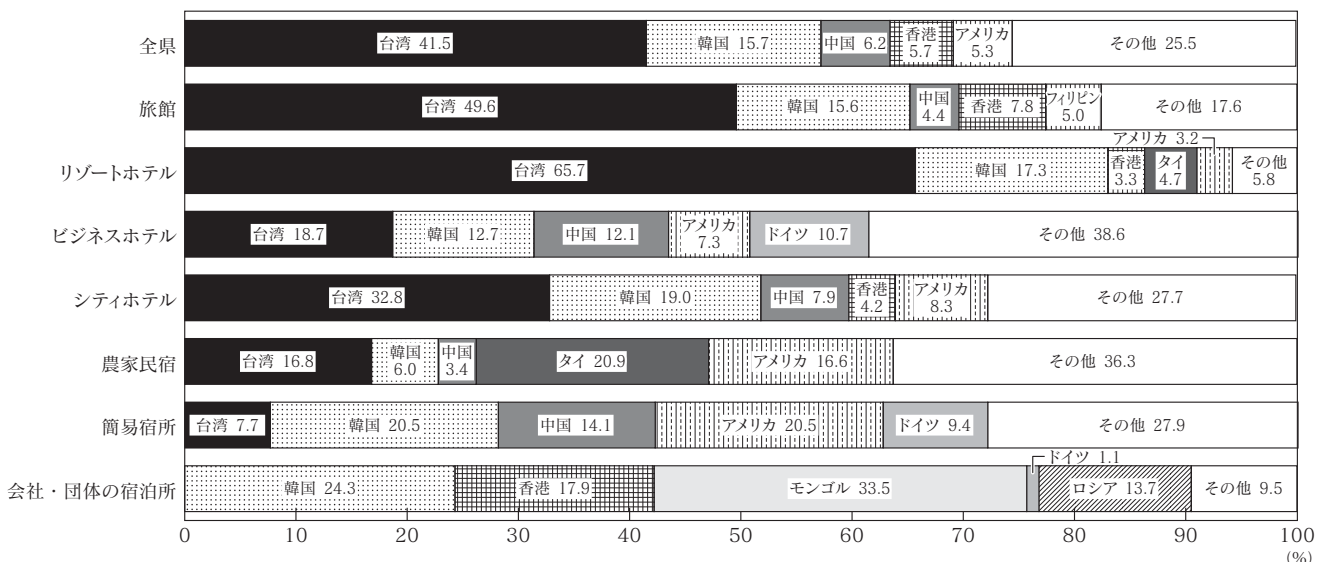
宿泊施設のタイプ別では、リゾートホテルと旅館で台湾の割合が高く、各々、65.7%、49.6%となった（図表10）。ビジネスホテルは上位5か国・地域以外の「その他の国・地域」（38.6%）が他の宿泊施設タイプを上回り、より多様な国籍・出身地域の外国人が宿泊しているものと推測される。シティホテルは、全県の傾向に似た傾向が表れた。会社・団体の宿泊所はモンゴル（33.5%）が、農家民宿はタイ（20.9%）が最も高い。簡易宿所はアメリカと韓国の利用が高い（20.5%）。

調 査

図表9 平成28年 外国人延べ宿泊者数（エリア別構成比・宿泊者数上位5か国および地域）



図表10 平成28年 外国人延べ宿泊者数（宿泊施設タイプ別構成比・宿泊者数上位5か国および地域）



図表11 自由記入欄回答抜粋—外国人宿泊者の特徴について

地域	宿泊施設タイプ	記述内容
鹿角地域	全タイプ	紅葉シーズンに台湾からの利用が多い。
北秋田地域	シティホテル	秋田犬保存会本部展覧会開催時の宿泊者が多い。 近くの工業団地で働くエンジニアリング関係者が連泊する。
山本地域	旅館	白神山地や十二湖に行く利用者が多い。
	ビジネスホテル	天候不良で出航できない場合フィリピン人の船員が利用する。 風力発電関係者の利用が多い。
秋田市	全タイプ	涙を流すマリア像の参拝客が多い。
秋田市を除く秋田地域	ビジネスホテル	近隣工場の工事従事者の長期連泊がある。
由利地域	旅館	男鹿半島、白神山地に行く観光客が多い。
仙北地域	旅館	近隣工場関係者のビジネス利用が多い。 温泉、登山、トレッキング目的の利用が多い。
平鹿・雄勝地域	ビジネスホテル	横手の雪まつり、増田の蔵見学の利用が多い。
	旅館	角館の桜まつり、田沢湖など近隣地域の観光客が多い。 地熱開発のボーリング作業員が連泊している。

b 特徴点

自由記入欄に記載のあったものの中から、各地域ごとの特徴的な記述を抜粋した（図表11）。

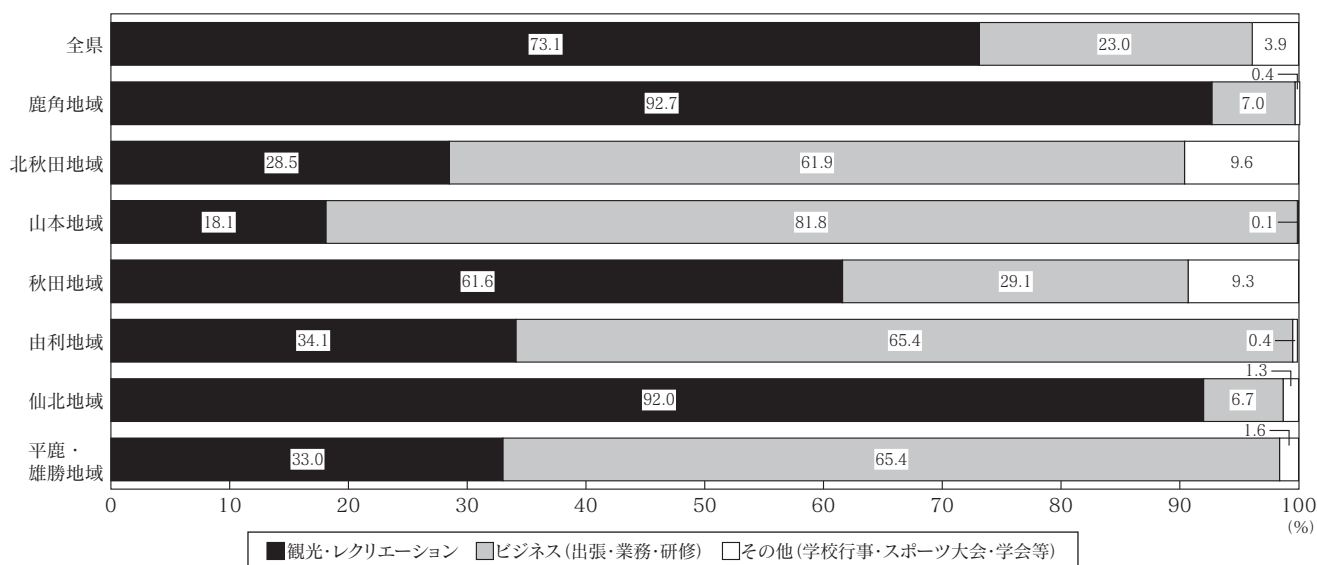
c 来秋目的

外国人宿泊者の来秋目的は、観光・レクリエーション（73.1%）が7割を超え、最も割合が高い。次いで、ビジネス（出張・業務・研修）が23.0%、その他（学校行事・スポーツ大会・学会等）が3.9%である（図表12）。

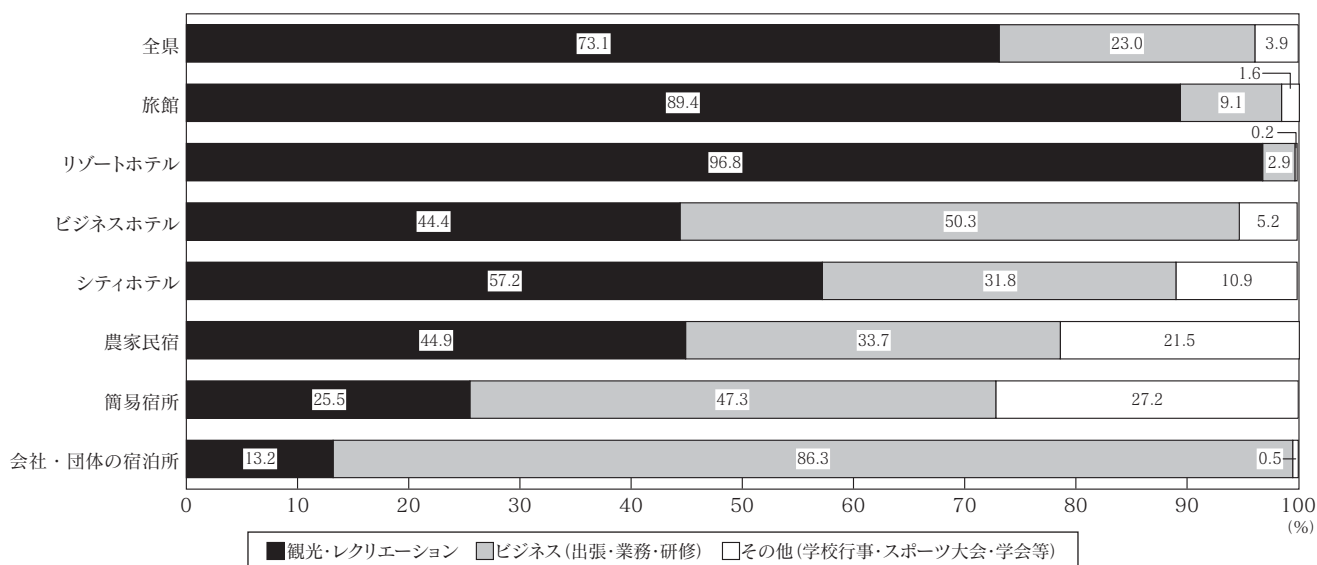
観光・レクリエーションは、鹿角地域（92.7%）と仙北地域（92.0%）で9割超、秋田地域（61.6%）も6割を超える。ビジネスは、山本地域（81.8%）、由利地域（65.4%）、平鹿・雄勝地域（65.4%）、北秋田地域（61.9%）で割合が高い。その他については、北秋田地域（9.6%）と秋田地域（9.3%）が1割近くと、他エリアを上回った。

宿泊施設のタイプ別では、リゾートホテル（96.8%）と旅館（89.4%）は観光・レクリエーションの割合が高く、会社・団体の宿泊所は

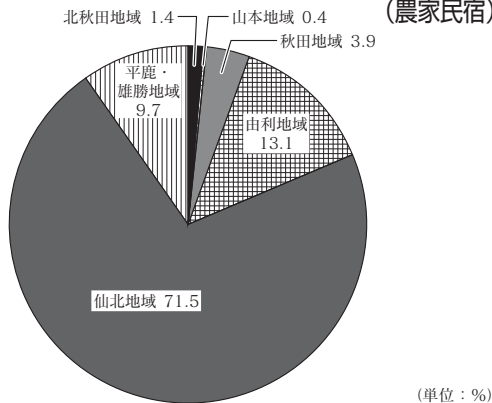
図表12 平成28年 来秋目的別外国人延べ宿泊者数（エリア別構成比）



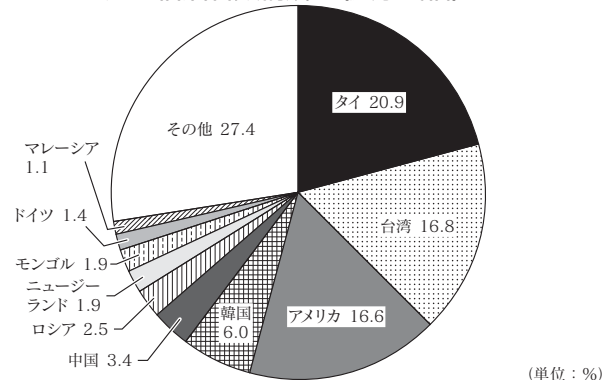
図表13 平成28年 来秋目的別外国人延べ宿泊者数（宿泊施設タイプ別構成比）



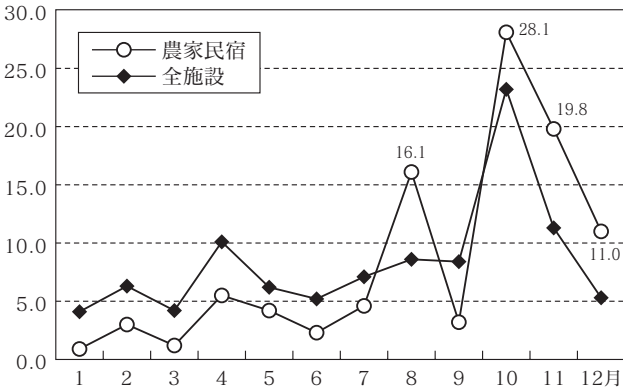
図表14 平成28年 外国人延べ宿泊者数のエリア別構成比 (農家民宿)



図表16 平成28年 主な10か国および地域の外国人延べ宿泊者数構成比(農家民宿)



図表15 平成28年 外国人延べ宿泊者数月別構成比 (農家民宿と全施設)



ビジネス (86.3%) が高い (図表13)。簡易宿所 (27.2%) と農家民宿 (21.5%) はその他が2割を超え、他宿泊施設タイプを上回った。

(3) 農家民宿の外国人宿泊者の特徴について

a エリア別構成比

アンケートにご回答いただいた県内農家民宿47か所における平成28年外国人延べ宿泊者数のエリア別構成比をみると、仙北地域 (71.5%) が抜きんでて高い (図表14)。対前年増加率は94.8%で、全施設の増加率 (28.2%) と比べ、農家民宿は伸び率が大きい。

なお、外国人宿泊者が「〇」と回答した農家民宿施設は、27年が33か所 (回答のあった農家民宿全体の70.2%)、28年は26か所 (同55.3%) であった。

なお、鹿角地域は宿泊施設タイプとして農家民宿に該当する回答がなかった。

b 月別構成比

農家民宿の外国人延べ宿泊者数の月別構成比については、10月 (28.1%) が最も高く、続いて、11月 (19.8%)、8月 (16.1%)、12月 (11.0%) の順に高い (図表15)。全施設の外国人延べ宿泊者数は秋と春の行楽シーズンに多いが、農家民宿は8月と秋季に宿泊が偏る傾向がある。

c 国籍・出身地域

農家民宿における延べ外国人宿泊者の国籍・出身地域別構成比は、タイ (20.9%)、台湾 (16.8%)、アメリカ (16.6%) の順に高い。

(図表16)

全施設の国籍・出身地域としては、台湾、韓国、中国、香港の順に割合が高いのに対し、農家民宿はタイの宿泊者割合が特に高い。また、ロシア、ニュージーランド、モンゴルが上位10か国・地域に入ることも特徴である。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

後編では、ヒアリング調査の結果と、2つの調査結果を踏まえた現状分析について掲載する予定である。 (相沢 陽子)